

目次

1. 五十嵐キリスト教会から 1

- 「天国で会いましょう」—— 新保 泰子
「マクダニエル先生を悼む」—— 加藤 宏
「ありがとうMcダニエル師」—— 小林 正博
「愛の人、マクダニエル先生」—— 小林 洋子
「マク・ダニエル先生」—— 大塚 久生
「マク・ダニエル宣教師の思い出」—— 大塚 早知子

2. 新潟福音教会から 6

- 「マクダニエル先生と足跡」—— 山崎 武雄
「思い出」—— 山崎 信子
「マクダニエル先生の思い出」—— 桜井 利秋
「マクダニエル先生の思い出」—— 遠藤 蘭子
「マクダニエル先生のおもかげを偲んで」—— 高桑 泉

3. 北新潟キリスト教会から 11

- 「敬愛するペギー・マクダニエル先生」—— 原山 康伸・教会員一同
「宣教師マクダニエル先生へ」—— 川島 悦子
「マクダニエル先生の思い出」—— 星山 満須美
「MCDaniel先生の先見的伝道と私の思い出」—— 鈴木 孝二
↳新潟山形宣教区諸教会の土台作りに貢献↳
「ある宣教師との出会い」—— 國分 眞三
「ダニエル宣教師との思い出」—— 森 明夫
「ペギー先生、ジエニーさん、ケニー君へ」—— 鈴木 美恵子

4. 山の下福音教会から 18

- 「ペギー先生へ」—— 石井 裕子
「輝いていたマクダニエル先生」—— 古俣 俊子
「ペギー奥様へ」—— 齋藤 節子
「マクダニエル先生ご夫妻への感謝」—— 針貝 正子
「大きな大きな贈り物」—— 長谷部 愛実
「すべてを与えてくださった先生ご夫妻」—— 長谷部 芳江
「32年以上の祈りを経て」—— 大芝 麻里子

5. 亀田キリスト教会から …………… 21

「マクダニエル先生の思い出」—— 新保洋子

「ダニエル宣教師の思い出」—— 管百合子

「マック・ダニエル先生の思い出」—— 笠松一美

「マクダニエル師と共に 想い出すままに」

—— 内山孔司・サキ子

6. 新津福音キリスト教会から …………… 25

「愛するペギー夫人へ、一人の主のしもべより」

—— 松永堡智

「思い出」—— 山田誠

「思い出」—— 中村節子

7. 豊栄キリスト教会から …………… 27

「思い出」—— 笹川清子

「真なる主の僕」—— 横堀信子

8. 新発田キリスト教会から …………… 29

「伝道のスピリットを教えてくださいましたマクダニエル先生」

—— 本間蕙子

9. 日高キリスト教会から …………… 30

「He was a good man」—— 下川友也

「思い出」—— 下川ヨリ

編集後記 …………… 33

巻頭・巻末写真提供

小林 洋子 (五十嵐キリスト教会)

山崎 武雄 (新潟福音教会)

鈴木美恵子 (北新潟キリスト教会)

1. 五十嵐キリスト教会から

「天国で会いましょう」

新保 泰子

戦後50年、今から20年前に来日された時、五十嵐にも立ち寄られた時のマクダニエル先生の別れの言葉でした。

先生が宣教師となられたのは、戦争で海兵隊として日本に來られ戦後宣教師として福音を伝えるために再来日し、新潟の地で宣教を始められたと聞いております。

私は高校2年の時、ダニエル師の司式で受洗しました。そして次の週より、先生の車で青年の方々と現在の北区岡方と豊栄の各地を子どもたちの伝道に毎週出かけました。夕方には古町で路傍伝道、そして夕拝へと主の日を過ごしました。家族からはあきられていましたが、今は妹たちは「あの頃の信仰は素晴らしい」と言ってくれます。

ダニエル先生の思い出は、みことばが耳に残っています。「主をほめよ」「祈りましょう」「感謝します」第一テサロニケ5章16〜18節です。いつも聖句を暗唱し、改訳された時は改訳

を暗唱されておられました。

先生は「受けるよりは与えるほうが幸いである」使徒20章35節を実践された方でした。新津、松浜、亀田、山の下、五十嵐、豊栄など、他の宣教師と教会を建てていかれました。「ファンド基金」は宣教師を支える方々からの尊い献金で、新潟のすべての教会はそれを資金として建てあげられたといってもよいでしょう。しかしファンドの献金は、次の教会を建てるための資金として用いていかなければならないのです。受けた私たちの責任です。帰国されてからも、ご夫妻で米国で在住している日本人の方々に福音を伝えておられました。みことばを実践された宣教師でした。

「あなたがたの心を生かせ」（詩篇69篇32節）

「主の御許で安らいでください。」と栄光を主に帰して感謝を献げます。

新潟大学にも日本海にも近いこのエバーグリーンに建つ五十嵐キリスト教会建堂に尽力してくださった元ティーム宣教師マクダニエル師が亡くなった。今師の若い頃の写真を見ながら思い出をつづっている。

個人的な話で申し訳ないが初めて師と会ったのは三十年以上も前で家内を通してであった。私は師から洗礼を受け又私たちの結婚の証人にも奥さんのペギー姉となつてくださった。師から聞いた思い出話も沢山あるが中でも忘れられないのは先の太平洋戦争時にアメリカ海兵隊の一員として沖縄戦に加わったこと。それとケンタッキーフライドチキンの創始者のカーネル・サンダース氏に献金を頼んだがあっけなく断られたことをたどたどしい日本語で話してくれた。宣教師として派遣先を日本に決めたのも沖縄戦を体験したからのようであった。

目を閉じると今でも大きな身体で近づいて来て「加藤兄弟!! 祈りましょう!!」と言いつつ笑ってるようだ。そして師の良き友であり協力者でもあった小林正博兄から聞いたのだが建堂のおり会計が合わない時など「兄弟!! 主に任せましょう

!!」と言ってあっけらかんとして細かい事は気にしなかった。一見おおざっぱだが主を信頼し主にすべてを委ねる覚悟があった。主にあつて我が人生に悔いなしだった。私にはかなり耳の痛い事だが……。

今頃は御国で日本人のために同じ宣教師であつたクララメイ・ロビンソン師が焼いたパンと私の家内が作ったクッキーをテーブルに並べコーヒーや紅茶を飲みながら大きな声で話し笑っているでしょうよ。今改めて召された宣教師の兄姉に心からありがとう、御苦勞様と伝え残されたペギー夫人の上に主の憐れみと守りがあるようにお祈りいたします。

ダニー!! ありがとう!! 感謝です。アーメン。

昨年について相次いで大切な恩師を失った。一年前にはイスのホステトラ師の葬儀案内の便りをいただき、未だに言葉を失ったままの状態。手紙を書けないまま、マクダニエルさんに電話したことでした。ダンはずいぶん退院してきたところだとのこと、ペギーさんから「神様のところ天国に行ったのですから喜びましょう！」との言葉で悲しみの想いを投げ捨てられたことでした。

あれから1年を経ない2月21日(土)のフェースブックの書き込みに、恩師のマクダニエルさんが家族の皆様に見取られながら逝った記事が掲載されていて驚きました。人の悲しみは単純ではないし、簡単に文字に出来るほど強くも無いものだと思います。日頃からこの二人から 其々に頂いた御言葉(聖句)は何時も俺の内に宿って居ます。それを紹介しながら振り返りの言葉とし、出合いの状況や思い出話・エピソードは走馬灯のように廻り巡ってきますが、その記事は時を経て、静まって五十嵐キリスト教会の創立50年記念誌の発行まで俺が生きて居たら、その時に委ねることにします(笑)。

二人の大切な(「愛」と云う言葉の真意) 恩師からの強いメ

ッセージは何れもピリピ人への手紙4章です。ホステトラ夫妻からはピリピ4・4で、「いつも主にあって喜びなさい、もう一度言います。喜びなさい。」ですし、マクダニエルさんからはピリピ4・13「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」という箇所。大切なポイントがあります。勘違いや誤りの無いようにしなくてはなりません。4・4では(主にあって)ですし、4・13では(強くしてくださる方によって)なのです。それはまさしく主なるキリストからの賜ものとして繰り返し自覚をもって歩む必要があります。

二人の恩師には感謝しています。聖書的に「死」は新しい始まりでもありますし、チェンジ(新しいスタート)でもあり、チャレンジを言い渡された様な面持ちであります。素直に主に向かって祈りを捧げたいと思います。本気で祈りつつ歩みを全うしたいと願っております。「だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者は開かれる。」(ルカ11・10) ことを受け入れ、真剣な取り組みを重ね続けたい! というのが本音であります。残された皆様方に主からの平安が伴いますように! …ハレルヤ! そしてシャローム!!!

『こばやしさん、ダニエルです。おめでとうございます。ご主人のこと、とつてもうれしくて感動します。よい年をお迎えてください。ペギー…。(そばから)ダニエルです…。』

今から6年前(2009年)大晦日に、我が家の留守電にアメリカから届いていたメッセージです。6年前のお声が今でも消されないままに、奇跡的に残っています。クリスマスカードをお送りした時、「今年3月15日に主人が五十嵐教会で洗礼を受けたこと」をお知らせしました。そのことを喜んでクリスマスメッセージと共に電話してくださいだったのでした。お声からは、お二人の懐かしいお元気な姿が目に見えんできません。

私は、新潟小学校PTAのコーラスの友人に誘われ「婦人ランチヨン」に参加していました。私の二葉町の社宅近くに、ダニエル先生のお宅があり、「聖書の会」に誘われていましたが、出席しないうちに郊外に引っ越してしまいました。

少女の頃から外国文学や音楽等でキリスト教に興味をもち、聖書も持っていました。それが正しいキリスト教なのかと迷っていたのです。

ランチヨンに出席を重ねるうちに、「この儘ではいけない、聖書の学びによって弱い心がぶれない者になりたい」と思うようになり、二葉町の「聖書の会」に出席しました。そして、自分を省みなんと感謝の足りない者かと自戒させられました。学びと交わりの日々の中で、イエスさまの十字架の贖いを受け止めることが出来るようになりました。1964年3月、私は思いがけない舌癌のため入院。手術の三日前に、急遽五十嵐教会でマクダニエル先生により喜びの洗礼を受けることが出来ました。

神様は、この小さな者にも愛をもってダニエル先生とペギー先生を私たちの傍らにつかわしてくださいました。先生は、この地上での素晴らしい福音の働きを終えられ天に召されました。主のみもとに在って平安のうちにおられることでしょう。

ペギー先生とご家族の上に主の慰めと励ましと平安がありますようお祈りいたします。

私は1975年から15年の間、新潟市五十嵐二の町に住んでいました。妻が五十嵐キリスト教会に毎日曜日に通う中で、子どもたちを迎えに行くことが時々ありました。背の高い外国人がいつもにこやかに挨拶してくれましたが、この方がダニエル先生でした。

私が救われたのは2001年の伝道礼拝で若狭先生のメッセージを聞いて、その場でイエス様の元へ行きたいと願い決心しました。2002年の新年に先生がアメリカから電話をかけてくださり、「キョウダイ！シンネンオメデトウ」と祝福していただきました。想定外のことですごく感激しました。先生は私が救われたことを知って自分の喜びとしてくれたのです。同年の5月に日本海で三浦先生の司式で洗礼を授かりました。

その後先生が日本に来られる機会があり、五十嵐教会の入り口で会った時のことを今でも鮮明に思い出します。「オオ！キョウダイ！」大きな先生がハグをしてくれました。勿論救われたことを喜んでくださったからです。先生との接点は少なかったのですが暖かさを思い起こしています。伝道者とし

ての生涯を貫かれたことに尊敬の思いを持って感謝を申し上げます。先生！御国にて会いましょう。

「マク・ダニエル宣教師の思い出」

大塚 早知子

私の先生の印象は、背の高い、大きな方、いかにもアメリカ人らしい腰高の立派な体格。いつも顔を合わせればニコリ笑ってください。日本語は最後まで、とてもお上手とは思えなかった。むしろミセスの方が正しい意味の深い日本語を話されていたと思う。だからメッセージはいつもシンプルなものだったと記憶している。主イエス、罪、十字架、救い、信仰、などのことをちりばめて……。

又私とマク・ダニエル師のかかわりについて1ツ2ツ。私の教会は新潟大学のふもと。昔は荒涼とした五十嵐浜と言われた砂山に建っている。40年ほど前学生センターとして、小さな教会が建てられた。マク・ダニエル師が、まだ若かった小林大工さんを棟梁にして、大勢の人の手を借りいわば手作り建てられたと聞いている。今はそうそうたる下川牧師・松永牧師・水上牧師など当時若かった諸先生方が大勢駆け出

され、基礎のコンクリートを練り、ブロック積みをして出来上がった教会であります。10年前水まわりの修理の折には、まだブロックもすっかりしたものだと言われました。

マク・ダニエル師は、この教会にどのようなビジョンを持っていたのでしょうか。この40年の間、大勢の学生たちが、聖書の神を知らされ通り過ぎていきました。彼らの信仰が今どのように保たれているのかはわかりませんが、今年40周年を迎える時、彼らにもう一度呼びかけたいと思っています。

私の出身は豊栄、町に新潟から先生が来て日曜学校を開いており、小4の時、友人に誘われていき始めました。先生は現下川牧師夫人、ヨリ先生でした。これはイエス様が、十二弟子を招いた時のように、マク・ダニエル師が「兄弟く姉妹さあ行きましょう」とワゴン車に乗せ、若い学生さんや姉妹たちを連れてきたのです。豊栄までの道筋に、一人又ひとりとして下ろし日曜学校を開いた。と言うわけです。私はその時蒔かれた種の一つ。又その時の学生さんたちの多くは牧師となりました。行って彼らを弟子としなさい。と言われたイエス様の言葉通りのことを為さったなと思います。ありがとうございます。

2. 新潟福音教会から

「マクダニエル先生と足跡」

山崎 武雄

1958年の初夏、教会での昼食が終わった時「兄弟（先生はいつもこのように呼びかけられました）これから何かありますか」「何もありません」「それでは一緒に出かけましょう」「どこにですか」「行けばわかります」先生はいつも簡単に言われました。行き先はいつも葛塚方面でした。そして同乗者は、下川先生（当時大学生）と下川ヨリ姉（現夫人）と私でした。その日によって二、三人が同乗するときもありました。行き先は森下、高森などの部落、教会学校の出前をしていました。

マクダニエル先生はそのままと先に行き、農業倉庫の前に部落の人たちが工事のため休憩していました。道路は雨のためどろんこ道、先生が長靴をはいたのがわかりました。「皆さんこれから兄弟がイエスさまを信じた話をしますから聞いてください」「兄弟あなたの時間です」と証しを命じられました

た。

松浜教会の土地となったのはじめの時、「兄弟、松浜教会の土地を買うことにしました。いい所です」良いも悪いもわからずになんとか号という自動車に乗せられ松浜橋を渡って左側斜面畑の下に車を止め上部に行くと言根を取った後と、さつまいもの「つる」があちこちに丸めてありました。「良いところですよ。いい教会が建てられますよ」私は胸の中で、「大根とさつまいもがすもう取った後か」と思ったりしました。先生たちは先見の明があったのですね。

これらの他「五十嵐教会」のときは用地の土留め工事をしていました。奥様と二人で話し込んでる写真を見た時、各教会を見る時「私たちの新潟地区教会の基礎作りをしてくださいました先生、有難う」と胸の中で叫んでいます。



1959年の新潟福音教会・イースター早天祈祷会。新潟海岸にて。後列中間部にマクダニエル師（提供 山崎武雄兄）

新潟の地を愛し、福音宣教のために日夜勞し二葉町集會、白山浦の教會を福音センターとして今の地区教會の一つ一つの土台を他の宣教師の方々と共に据えられました。当時は、互いの教會の伝道會や色々な集會に行き來があり教會は恵みのあふれる楽しい交わりがあり救われる方々が常におこされておりました。各教會ではクリスマスチャンホームがおこされ育まれて今も主の幸いを感謝しつつ信仰によって繋がっています。

ダニエル先生は明るく賛美を口ずさみながら大きな身体で、「元気ですか」「感謝ですか」と声を掛け、いつも主への賛美とみことばで一人一人を励まし良く話を聞いてくださったのです。「さあ祈りましょう。」「聖書を開きましょう。」「神様はこう言っています」「信じましょう」と先生はいつもみことばで答えてくださり感謝へと導いてくださったものです。神様は眞実なお方です。1956年、洗礼を受けました。すべての罪を告白し神様のあわれみを信じて行く決心をいたしました。

『ヨハネの福音書』3章16節「それ神はその獨子を賜るほどに世を愛し給へりすべて彼を信する者の亡びずして永遠の生命を得んためなり。」

『ヨハネの黙示録』3章20節「視よ我戸の外に立ちて叩く。もし我が声を聞き戸を開かば我その内に入りて彼と共に食し彼もまた我と共に食せん。」あなたの心の戸を開きなさいとよく言われました。

『ヨハネの福音書』14章6節「我は道なり眞理なり生命なり。我に由らでは誰にても父の御許にいたる者なし。」このみことばは、私が救われた時のみことばです。

先生との懐かしい思い出はワゴン車に乗り豊栄で路傍日曜学校をした事です。

子育ての頃、先生から「今日は海で集合しましょう。」と電話がありました。夏の夕方、早めに夕食を持って砂浜でゲームやボール投げ、先生の（アメリカ式）たこ揚げ、海水浴での遊びと。みんなで夕食をとり子どもたちにも楽しい夏の思い出です。

ダニエル先生、ペギー奥様には感謝でいっぱいです。祈り

よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって『あなたの神は王となられた』と言う者の足は山の上にあつてなんと美しいことだろう。

賽^{イサヤ}52・7

今を去る1950年頃私が病院で療養しているところに初代宣教師ウィリアム、ポーエル先生に連れられたマックダニエル先生がウィリアム、ポーエル先生の後任ということでご紹介をいただきました。「コンニチワマック、ダニエルです。」タドタドしい日本語で身体を左右に揺すりながらささやくお辞儀をするまだ若いヤンキーに私も思わずニッコリお辞儀をしました。今振り返ってみますと先生は太平洋戦争で、アメリカ合衆国海兵隊員として従軍されていたとのことで、祖国の為に戦った武器を下に置き、イエスキリストの福音を日本の国民に伝えようとペギー夫人と共に新潟の地に立たれたのでした。

先生はまず行動が先で集会所も最初はプレハブ（仮小屋）で始まり、次いで保育園や学校の建物を買い受けて教会の形

を作っていく方法でした。また聖書の大切な箇所をおぼえるまで徹底して教えられました。プレハブ（仮小屋）の集会所であれ、木造式の会堂、教会であれ屋根の上に十字架を立てることがダニエル先生と私の仕事でした。私の専門は電気関係でしたから十字架の照明は私の役目でした。何時も私の顔を見るなり「貴男は私が初めて会った日本人です」と言っているの後に手を廻しいとおしむように抱えてくださいました。ペギー夫人も私たちの悩みや個人的な問題に親身になって取り組んでくださいました。お兄ちゃん、ジェニーちゃんご家族共々神様から与えられた地上での働きを全うされました。

（提後^{テモテ}4・7）

「しかし信じたことのない者をどうして信じるでしょうか、聞いたことのない者をどうして信じるでしょうか、宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあるのか、つかわれなくては、どうして宣べ伝えることがあるのか。あゝ麗しいかな良きおとずれを告げる者の足は。」

羅^{ロム}10・14、15

先生の霊の天に在りて安からんことを。

マクダニエル宣教師ご夫妻を懐かしく思い出す時、3つのことが思い浮かびます。

マクダニエル先生と初めてお会いしたのは、下川友也先生を通してイースター受洗後に、穏やかな笑顔と大きな手で握手。その後、しばらくしてマクダニエル先生ご夫妻の車に乗り、豊栄キリスト教会の特別伝道集会の案内放送に参加。白山浦から豊栄までの道程を心細く、緊張感の中、ご夫妻は気軽に話しかけられいつの間に、救われた喜びの中で、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3・16)を読みながら、小さき者を奉仕へと導いてくださいました。

二つ目は、新潟福音教会の礼拝説教でパウロが異邦人伝道に召されたように、力強く自由に講壇の脇を動きながら、「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」(ローマ1・16)とみことばを噛みしめるように、若き日キリストに一生をささげられ、福音を宣べ伝えてくだ

さったお姿が心に刻まれ、甦ってきます。

三つ目は、教会予定地に五十嵐キリスト教会を建て上げ、TEAM宣教師、牧師先生方や信徒たちの感謝と喜びが溢れる中の献堂式。主の御名が置かれた教会に、キリストが生きて働かれたこと。集いとお交わりに感動を覚えました。

マクダニエル先生ご夫妻が故郷から遠い日本に遣わされ、新潟を愛し救われる魂の為に、主と共に新潟ブロック教会の礎を築かれたお働きを感謝致します。後に続く教会員に、開拓精神と愛を注いでくださったマクダニエル先生を偲びつつ、ペギー先生の上に主のお慰めがありますようお祈り申し上げます。

「マクダニエル先生のおもかげを偲んで」—— 高桑 泉

ダニエル先生ご夫妻に初めてお目にかかったのは、1981年頃のこと。先生のご自宅で毎週水曜日に開催される学び会へある方が導いてくださり、宗教に全く興味がなかったのですが、とても近くに宣教師さまのお宅があり、何となく伺ってみたのが始まりでした。ダニエル先生ご夫妻は誰に対し

でも分け隔てなく大きな愛で包むように接してくださる方々でした。水曜の会は当時の私より年配の方々が多かったのですが、皆様とても明るく親切な方々ばかりで、笑いの多いとても和やかな学び会でした。

ダニエル先生は英語混じりの日本語で語られ、いつも「ハレルヤ！」と天を指さしておられたのがとても印象に残っています。そしてその時なぜか先生と天とがとても近くに存在しているかのように感じた記憶があります。今思うといつも変わらず穏やかでにこやかな先生のお人柄は、きっと神様との対話を通して先生ご自身が神様の大きな愛に包まれ、いつも喜び絶えず祈り、すべてのことに感謝する人生でいらしたからなのだなあと思います。

先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。またペギー先生が天の御国でダニエル先生に再会されるその時までであらゆることが守られて平安な日々をお過ごしになられますようにお祈り申し上げます。

3. 北新潟キリスト教会から

「敬愛するペギー・マクダニエル先生」

—— 原山 康伸・教会員一同

「私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」

（『ピリピ人への手紙』3章20節）

敬愛するダニエル・マクダニエル先生召天のお知らせを伺い、ペギー先生はじめご遺族の皆様には、主イエスさまからの慰めと平安が豊かに注がれますよう、心よりお祈り申しあげます。

日本の新潟宣教区の諸教会にとって、マクダニエル先生は、信仰の父と呼ぶのにふさわしい方です。現在も、先生ご夫妻に導かれてクリスチャンとなられた方々が多くおられ、それぞれの教会の礎として忠実に歩んでおられます。

そのような信仰者お一人ひとりの証しを通して、マクダニエル先生ご夫妻が日本に残された宣教の実が、これからも結ばれていくことでしよう。聖霊のお働きのうちに、なおも新潟の福音宣教が前進してまいりますようお祈りください。

ペギー先生のご健康が支えられますよう、教会員一同心を合わせてお祈り申し上げます。

「宣教師マクダニエル先生へ」—— 川島 悦子

先生のお働きにより、私はキリストの福音に触れることが出来ました。滅びしかなかった私に天国への道を教えてくださり、喜びと希望をもって与えられた命に生かされております。

遠く異郷の地日本の更に更に田舎の松浜に蒔かれた福音の種が、神様からの水を注がれ、恵みによって幾倍にも増し加わって私にまでおよんでくださいました。

遠く異郷の地での福音宣教は、なれない風土・未知の文化の中で、本当にご苦勞の多い日々であったと想像だに及びません。

先生は今、天国でイエス様より「よくやった。良い忠実なしもべよ」とお褒めのことばを頂いていることでしょう。

先生のお働きにより感謝いたします。また、天国でお会いする日を楽しみにしております。

御遺族様の上に主の豊かな慰めがありますようお祈り致しております。

「マクダニエル先生の思い出」—— 星山 満須美

松浜のあかしゃの砂丘地にかまぼこ形の教会が建設され、白い屋根、内装はクリーム色、着々と完成するまでの工程で、マクダニエル先生が作業服姿に満面の笑顔で塗装工さながらに勤しむ姿に感服しておりました。

又、聖書のみことばを暗誦し、日本語ですらすら教えてくださる姿勢にも驚きでした。日本の新潟の松浜へ福音を届けに来てくださって、惜しみなく私たちひとりひとりにキリストの愛を注いで育ててくださいました。感謝にたえません。マクダニエル先生ありがとうございました。イエスさまのみそばにて安らかに休息してください。

「McDaniel先生の先見的伝道と私の思い出」——鈴木孝二

〈新潟山形宣教区諸教会の土台作り貢献〉

Ⅰ 新潟地区諸教会の誕生と新潟バンドの人たち

日本キリスト教史の源流の一つに「横浜バンド」がある。現在も、日本の諸教会、牧師信徒たちに深く浸透している流れの一つである。

戦後、TEAM宣教師たちによってなされた新潟での伝道活動は、じつに、それに似ていると確信する。中でも、1954年から30年余、献身的に活動されたマクダニエル先生ご夫妻のことを共に覚えたい。市内二葉町に住み、新潟地区諸教会の会堂建設、教会形成に深く関与されたことは、多くの者が記憶している。

なかでも、新潟福音教会、松浜キリスト教会（現北新潟キリスト教会）、さんび幼稚園と共にあった山の下福音教会、五十嵐キリスト教会など、先生の直接的ご労に寄るところ大である。豊栄キリスト教会には、各所での、日曜学校の活動が源泉となっていることを覚えたい。他の宣教師の先生方との協力体制は、すばらしいものがあつた。

その福音宣教より、初期キリスト信徒たちが誕生し、今日

に至っている。私は、その信徒たちを総称して、「新潟バンド」と呼びたい。大瀧信也、下川友也、斉藤成美牧師たち、長谷部芳江、下川ヨリ姉たちなど、多くのキリスト者を輩出している。

熱心に祈り、主イエス・キリストに仕えていく姿勢は、宣教師ゆずりと言うべきと思う。マクダニエル先生を天に送った今、今一度、その伝道者魂を思い出したいものである。

Ⅱ 私にとってのマクダニエル先生

(1) 1963年3月、松浜町新屋敷金子さん宅2階での家庭集會が、先生との初対面です。ちょうどその時、松浜キリスト教会が建設中で、国分真三兄と一日手伝いに行きました。今も、その時の写真が残っています。あのカマボコ型教会です。

(2) 以来、先生ご夫妻との交流は、たくさんの事々があります。第一のことは、礼拝です。先生は、聖書をたくさん引用されます。どれだけ多く引用されたことが、眠っているヒマがありませんでした。聖書への肉迫を深く教えられました。

(3) 学生時代、ある夜、先生宅に招待され、夕食をいただきました。また、軽井沢に行くとき、車に同乗させていただ

き、野尻湖で楽しいひとときを持ったことを忘れません。

(4) さんび幼稚園の増築の時、マクダニエル、リース先生たちのもとで手伝いをさせていただきました。お二人が、無報酬で働かれるのに、バイト代をいただくことは心苦しかったことを思い出します。ガス化学などでのソフトボール試合参加も思い出します。

(5) 最も感謝していることは、1979年9月、妻美恵子が重態の折、ご夫妻の祈りとご支援の一つ一つです。妻美恵子が奇跡的に回復し、生まれた子供が成長できたことの背後に先生方のお力のあったことです。重ねて感謝、お礼を申し上げます。

(6) 私の実家、鈴木八百屋にも、ぶどうなど買い物に来ていただきました。先生のフレンドリーな言葉がけに、みんな大喜びでした。ダニエル先生、先生のことは生涯忘れません。

「ある宣教師との出会い」

—— 國分 眞三（元新潟福音教会員、鈴木孝二兄の親友）

1959（昭和34）年高校2年生の秋、新潟福音教会に導

かれ集会に出席するようになった。そこにはマクダニエル、ヘギー、リースの若きアメリカ人宣教師がいて、美しい姿、かわいい子どもに囲まれ、映画や雑誌に見るアメリカ文化が漂っていた。しかし彼らは、よく見ると一般のアメリカ人と違っていた。とにかく福音の戦士というか、福音を恥とせず、いつでもどこでも出かけ、声をかけ、伝道まっしぐらであった。すさまじいエネルギーにあふれ、教会に来ていた若者のハートをすっかり捕らえていた。礼拝の後、宣教師の運転する車で田舎に出かけ子どもたちのための日曜学校に駆け出され、路傍伝道では、聴衆の前に証しをなし、トラクト配布をし、私も熱狂的な信者となっていた。

しかし内村鑑三の無教会主義に触れたり、同志社大学の神学部に進路を決めようとしたことから、意見の対立を見るようになり、教会から足が遠のくようになった。そんな時マクダニエルさんは、わざわざ我が家まで何度も足を運び、はじけるような笑い声で、「はい、國分さん、元気ですか」と、大きな手で握手をし、ハグをする。私のために聖書を開き祈るマクダニエル先生は、私の反米感情を少しずつ溶かしてくれた。若き日のダニエル宣教師との出会いは、決して忘れることの出来ない時期であった。

私が若いとき、新潟福音教会の礼拝を終えるとダニエル宣教師の車に乗って豊栄伝道に良く出かけました。あるとき私が失業している時、宣教師が私のところに來まして、長谷部秀英さんが神学校に行くのでさんび幼稚園のバスの運転をしてくれませんかとお願いをされましたが、祈ってから決めますと答えました。

朝の祈りの時に聖書を開いたら、「ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです」(コロサイ1章24節)のみことばが示され、心からお受けしました。

今は次のみことば、「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです」(ペテロ第一、3章9節)のみことばによって祈りのわざに励んでいます。

終わりに、聖歌707番をささげます。

1. 心にもだえあらばイエスに話せ イエスに話せ

悲しみうれいあらば イエスに話せよ

(折り返し)

イエスに話せ 良き友なる イエスに話せよ

思案せずに 何ごとをも イエスに話せよ

2. 涙のせき来るとき イエスに話せ イエスに話せ

隠せる罪を持たば イエスに話せよ

3. 恐れに囲まれなば イエスに話せ イエスに話せ

明日の日氣にかからば イエスに話せよ

4. 死ぬるに安きなくば イエスに話せ イエスに話せ

まどえるその心を イエスに話せよ

「ペギー先生、ジェニーさん、ケニー君へ」——鈴木美恵子

ケニーちゃんのさんび幼稚園の時の顔が目に浮かびます。ご主人様、お父様を、天に送られ、おさびしいことと存じます。主の慰めを心からお祈りしつつ、私の中のダニエル先生ご夫妻の思い出を述べさせていただきます。

「ピリピ4の4！」ダニエル先生は優しい笑顔でよくおっしゃいました。「どんなに問題があっても、雲の上には、いつも、どこまでも、青空が広がっています。感謝なこと〜！（うっとりした表情で顔をやや天に向けて）祈りましょう〜！」と。松浜にカマボコ型教会が建つ前のある秋の夜、家庭集会后に、ダニエル先生が探し求めた土地に、私たちを案内してくださいました。そこには、道なく、周りに一軒の家もない砂丘地でした。それから翌年の春の献堂まで、先生ご夫妻は、手弁当と暖房用器を持って、小出大工さんと教会堂を建て上げられたのでした。

また、新潟地震後に創立されたさんび幼稚園の働きに、私も加えていただきました。初代園長となられた先生は、ご自分のワゴン車を改造して運転もされ、園児送迎の待ち時間にいつも運転席で、暗唱聖句のカードを見ておられました。

その後、園児が増えて、大型マイクロバス（現在は大型免許が必要）になったとき、普通免許を取って一、二年目の私に、運転を促されます。尻込みする私でしたが、先生のスマイルとみことばで熱心に説得され、先生不在のときどき、運転したことがありました。当時は、まだ車社会ものんびりした時代でした。

それから、私が、5番目の子の出産で重態となり、新潟大 学病院に6ヶ月半入院しました。再手術の麻酔から覚めた時、夜遅くまでそばにいてくださったのはペギー奥様でした。その後、看護師の経験から、奥様は、当時、個室で絶対安静の私を起こし、髪を洗い、褥瘡になりかけたところに、ボディークリームを持参し、塗ってくださいました。その後、車椅子に乗せて、初めて病院内に連れ出してくださいされたのも、奥様です。

体調が落ち着いて大部屋に移った頃、ダニエル先生は、夕方、時々、ヒョッコリ、ニッコリ笑顔を、ドアの所で、覗いてくださいました。とても嬉しかったです。

ある日、お見送りする途中、「私たちの集会の横田さんのお嬢さん、めぐみさんが突然いなくなりました。まったくわかりません。祈ってくださいね。」と真剣におっしゃいました。

さて、先生たちは、4年ごとのアメリカ帰国の1年後、再び新潟に戻られた折、手作りのオウムのマグネットや食器洗いのメッシュなどお土産を持って、我が家にもおいでくださいましたね。先生ご夫妻と5番目の息子を入れて、家族みんなで撮った嬉しい写真があります。そのことを子どもたちも覚えていて、感謝でいっぱいです。

最後に、ダニエル先生ご夫妻が、新潟でのご奉仕を終えて帰国されてから12年後、さんび幼稚園4人の姉妹たちで、1998年3月、ペンシルベニア州のご自宅をお尋ねしました。静かな住宅街のゆったりスペースの一角で、家の前には、しだれ桜が咲き、小鳥やリスたちが餌を食べに来るお庭の自然豊かなこと、また、ワシントンやアーミッシュ地区訪問、ジエニーお嬢さん宅での手巻き寿司による会食、先生の奉仕先老人ホームの立派さ、明るさに対する驚き、親戚のおうちの子供さんたちとの折り紙遊びなど、楽しい思い出がたくさんできました。

この旅を通して、ダニエル先生と奥様を、アメリカよりはるばる遠き日本へ、私たちの新潟の地へと遣わされ、何よりもイエス様を愛され、喜びの中、神様の愛、福音を伝えてくださったことに、父なる神様に心から感謝の祈りをささげ

ました。

ペギー奥様とご家族の皆様には、神様の豊かなお励ましと祝福がありますように祈ります。どうぞいつまでもお元気でいらしてくださいませ。



笑顔がもどってきました。——ダニエル先生夫妻と共に

4. 山の下福音教会から

「ペギー先生へ」

石井 裕子

ペギー先生。ダン先生が召された知らせに、弔意を表します。日曜礼拝で愛実牧師から知らせを聞き、涙が溢れて、いつもどおりに賛美することができませんでした。「私たちは、もう一度ダニエル先生に会うのです」とおっしゃられたそのことは真実であると告白いたします。ご主人との想い出は、とてもここに書ききれるものではありませんが、一つお話しするとすれば、私の父のことです。クリスチャンではなく、仏教徒だった父が体調を崩し、入院していた時、日曜礼拝の初めに、ダニエル先生が、「彼女のお父さまのために祈りましょう!」と呼びかけてくださいました。先生の大きな声と祈りに、大いに励まされました。

また、山の下福音教会の50周年記念にお手紙を賜り、感謝いたします。お手紙を通して、皆がダニエル先生を覚え、心に刻むことでしょう。新潟でお会いできたことを、イエスさ

まに感謝しています。神さまの慰めが、ペギー先生とご家族にありますよう祈りつつ、主にありて。

「輝いていたマクダニエル先生」

古俣 俊子

マクダニエル先生とは、さんび幼稚園を通しての出会いがきっかけでした。入信間もない私は、先生と初めてお会いした時、先生の満面の笑みに圧倒され、この輝きは、どこからきているのだろう、と思ったものです。新潟での宣教活動、無から産み出された数々の偉業、日本での文化の違いやことばの違いなど、先生にしかわからない多くの困難、戸惑いがあつたはずなのに、先生は常々、「どんな時でも、イエス・キリストを見上げましょう!」と力強く語られ、先生の信仰の強さを垣間見ることができました。数年間の交わりの中で、生きた信仰生活を示してください、大きな大きな宝物をいただきました。天国でお会いするその日迄、先生が常々口ずさんでいた「主よ、感謝します!」を覚えて歩んでいきます。マクダニエル宣教師に感謝しつつ。

「ペギー奥様へ」

齋藤 節子

奥様。ご無沙汰しております。お元気でいらっしゃると思います。ご夫妻は、日本の福音宣教の為に生涯をささげてくださいました。心から感謝致します。おかげさまで今の私たちがあります。私たちも年齢を増すごとに、ともにおられた方々が召されていき、淋しくなりますが、「わが国籍は天にあり」のみことばにハッとさせられ、励まされ、慰められ、懐かしい方々との再会の日を夢見ています。「まことに私のいのちの日の限り、慈しみと恵みとが私を追ってくるでしょう(詩篇23・6)」のみことばに力をいただいで、私は主を仰ぎ見ながら信仰を全うしていきたいと願わされています。どうかお元気で。

「マクダニエルご夫妻への感謝」

針貝 正子

福音宣教のために、この日本で、深い愛をもって愛し、お交わりくださったマクダニエルご夫妻に、心から感謝をいたします。いつも、礎町のバス停に立つ私を通りがかりにお車

に乗せ、教会に連れて行ってくださり、ありがとございました。

「大きな大きな贈り物」

長谷部 愛実

何もかも小さな国に、何にも代え難い福音を携えて、海を越えて来てくださった、何もかも大きな大きなダニエル先生。そして、ご家族の皆さん。皆さんがくださった何より大きな贈り物は、神さまの大きな大きな愛でした。本当にありがとうございます。御国での再会を待ち望みます。

「すべてを与えてくださった先生ご夫妻」

長谷部 芳江

先生ご夫妻に出会えたことを心より感謝いたします。先生方の生き方を見て、神さまの愛と義さの数々を学ばされました。マクダニエル先生が、日曜日の午後、何の訓練も受けていない私たちを、子どもたちに福音を伝えるためにジープに

乗せ、豊栄方面に連れて行かれたことを思い出します。子どもたちとの出会いを通して、私は、子どもたちについて知り、学びました。

先生方の、子どもたちへの伝道のビジョンが、認可幼稚園設立に迄なつた時、資格のある教師が与えられるように、との祈りがありました。私には何の準備もなく、経済的にも手の届かないことで、短大合格の通知を受け取ってなお、入学に必要なお金が用意できませんでした。ペギー先生が、そんな私に、「これは、神さまに献げるのです」と言つて、必要な費用を渡してくださったことは忘れることができません。地上ではお会いできませんでしたが、ペギー先生のお母さまが、年金の中から2年間の学びの必要のために送金してくださったことを含め、数々の愛を心より感謝しております。

幼稚園で働き始め、心身が疲れ果てて、「やめたい」と、泣き泣き告げた時、「明日、幼稚園を閉じます」と言われ、日々熱心に祈り支えられていたことを思わされました。バビさんが9歳で召された時は、深い悲しみとさみしさの中で、信仰による力と慰め、天の御国への希望を教えられました。幼稚園のストープが何度も故障して、夜に2時間も3時間もかけて一人で黙々と働いて、「感謝します！讚美します！（ピリピ

4・4）」と天を仰いでおられた先生は、その信仰のまま、天の御国へ旅立たれたことでしょう。

今年のイースター、一人の女性が、10代の頃、お父さまがダニエル先生からもらったという聖書を持って礼拝に来られました。種が蒔かれて30年以上の時を経て、先生方の想い出を分かち合える山の下福音教会に導かれたことを喜び合いました。大芝麻里子さんのために、ぜひお祈りください。さんび幼稚園を通して蒔かれた多くの福音の種が実を結び、教会がその刈り取りの召命を果たせるように祈っています。

「32年以上の祈りを経て」——大芝麻里子

32年前に二葉町の海岸で、足の不自由な私の父に聖書をプレゼントしてくださったこと、本当に感謝しています。一度、神さまと聖書から離れましたが、ダニエル先生が父にプレゼントしてくださいました聖書をずっと持ち続け、後に救いに導かれました。私が離れた時に、ダニエル先生が職場の美容室まで来て、祈ってくださいましたこと、今でも忘れていません。ダニエル先生。本当にありがとう。

5. 亀田キリスト教会から

「マクダニエル先生の思い出」

新保 洋子

先生を思い出すといつも素晴らしい笑顔を思い出します。そして先生は一つの教会だけに留まらず、宣教区全体の教会のことを考えてくださっていたと思います。

その中の一つの教会として、亀田教会のために、最初はプレハブの建物、その後には今使用している会堂のために、東京から水上先生と共に譲り受けた会堂の資材を何往復かして車で運んでくださいました。個人的には私が求道中の時に、職場まで訪ねてきてくださったことが忘れられません。この日本の新潟の福音宣教のために労してくださいましたマクダニエル先生に心から感謝致します。

一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

（『ヨハネの福音書』12章24節）



向かって左より、ペギー・マクダニエル夫人、吉田（下川）ヨリ姉、阿部（長谷部）芳江姉。（提供 山崎武雄兄）

・48年前、ダニエル師はライオンズクラブ会員となり、私が勤めていた亀田第1病院の渡辺院長が師と交わり、聖書を読む機会が与えられました。ダニエル師は、私の若い頃勤めていた店にも客として来られ、私と共に店の支配人の家に招かれた事がありました。

・私たちの婚約式は、新潟地震後会堂建設中のため、宣教師館でさせて頂きました。両家の家族特に年配の親戚に主を証しできました。結婚式は、完成した新しい教会で行い、宣教師たちが一生懸命奉仕してくださり、この時も親類や職場の方々に良い証しとなりました。

・私の3人の子どもは、さんび幼稚園で教育を受けました。ある日、私は子どもたちと外出中、万代橋でダニエル師夫人と出会いました。バス代を節約するため、大きな荷物を持って歩いていた夫人を見た子どもたちは、「アブラハムの奥さん、サラだ」と言って大喜びでした。

・母の会でクッキーの作り方を教えてもらい、秋になると教会員の中村姉の家族から柿をいただき、伝道の機会を得ました。

・55年前、亀田町役場での特別音楽伝道集会で、ダニエル師に奉仕していただきました。家庭集会や礼拝での説教も感謝しています。

・教会員も少なく牧師もいなかった50年前、宣教師3人で教会堂建設を助けてくださいました。材料は新潟地震で作業現場で使われた中古のプレハブを大工さんからいただいたそうです。最初の会堂は、電気、水道、ガスがなくトイレもポリバケツでした。その後、東京の聖パウロ教会から譲り受けた約70坪の木造建物の資材を、2月の雪道を運搬し会堂建設に労してくださいました。内装は何年もかかりましたが、会堂は40年間用いられました。軽井沢の米軍基地の教会の立派な長椅子も師が運搬してくださり、40年使用しました。

・夫健治は新潟福音教会でダニエル宣教師より洗礼を授けていただき、豊栄方面での日曜学校伝道のため、車に乗せていただきました。

「マック・ダニエル先生の思い出」—— 笠松 一美

私が亀田キリスト教会に来た頃は、プレハブの小さな教会でした。初代牧師の水上市先生が赴任され一年を迎えた頃でした。新潟地区には何組かの宣教師の先生がおられ、各教会の礼拝に入れかわり立ちかわり出席され、説教奉仕にされていました。金髪と青い目の可愛らしいお子さんたちを連れて外国の人々は当時の町では、珍しい存在だったと思います。

いろいろな思い出がありますが、私は結婚して半年が過ぎた頃、ガンセンターの婦人科に入院し手術を受けました。その時マック・ダニエル先生がお見舞いに来てくださり、びっくりいたしました。四人か六人部屋だったと思いますが、うれいような、ちよつと恥ずかしいような、誇らしい気持ちがありました。

宣教師の先生方は、異教の地で、ことばやさまざまな困難を乗り越え、宣教され、教会を建て上げてくださいました。そして導かれた一人一人のことに関心をもたれ、私のような小さな者にまで、細やかな暖かい牧会をしていただきありがとうございました。

「マクダニエル師と共に 思い出すまに」—— 内山孔司・サキ子

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(『ヨハネの福音書』13章34節)

私たちがダニエル先生と初めてお会いしたのは、出来上がったばかりのプレハブの教会でした。先生は、ペギー夫人と、息子のケニー君をつれて、時々、礼拝のご奉仕をしてくださいました。以後、帰国されるまで、私たち家族との、ふかいおつき合いが始まりました。

子どもの進学、就職、主人の大病に至るまで、こと細かに、心配してくださり、実の兄弟にも及ばぬ愛を示してくださいました。

特に、主人が、肺の大手術の時、主治医から「保存血は使えません。すぐに四千ccの血液を用意してください。」と云われましたが、新潟に引っ越して間もない私たちは、右を見ても左を見ても知らない人ばかり、途方にくれていた時、ダニエル師からの、声がかかり、「私が血液を下さる方を、探します。」と云って東洋ガス化学「英語を教えていたクラス」

から、若い男性二十人ほどをつれてきてくださり、難なく、手術を終えることができました。あの時の、スピーディーさにも、大変驚いたものです。魂の救いも、時を逸したら生きるものも死んでしまうからです。

ダニエル師は、大変器用で、車の塗装からペンキ塗りまで、実に見事でした。我が家の浄化槽の穴掘り、水洗トイレも据えつけてくださり、あれから数十年、今も故障しません。

師は、よく、病院訪問、家庭訪問を重視され、仕事中でも、さっと作業服を脱ぎ替えて市民病院に走ったものです。師は面会謝絶の札がかかっているにもかかわらず、何のその、スイスイと病室に入っていられましたから病院側からも一目おかれていたのではないかと思います。

ダニエル師との話はずきません。五十嵐教会の土台を据えた時、ダニエル師と一緒に、一輪車で砂利や砂を運び、ヘトヘトに疲れた時も師は笑顔を浮かべ私たちを励ましてくださり、汗を惜しみませんでした。

こんなひょうきんな一面もありました。ある集まりでの自己紹介です。

五味さん「私は五味です。どうぞよろしく。」

ダニエル氏「まあ何とお気の毒な名前でしょう！」

五味さん「いいえ、Five Testesよ。」

マクダニエル先生は、新潟地区の諸教会をこよなく愛し、ある時は大工になり又、講壇に立ち、運送や、医師、とすべてのことに、惜しみなく力を注ぎだしてくださいました。

人生の美しい、青春時代、力のみなざる壮年時代、みんなみんな日本の又ニイガタの魂の救いの為に、奉げ盡くしてくださいました。感謝！再会できる日を待っております。

6. 新津福音キリスト教会から

「愛するペギー夫人へ、一人の主のしもべより」

松永 堡智

ご主人の召天の知らせを聞いて驚いています。思い起こせば、そのころの映像が次々と浮かび上がってきます。五十嵐教会建設の時、私は瓦葺きを教えていただき、朝から夕まで釘打ちをしました。今も先生の苦労の後を見ることが出来ます。同時に、さんび幼稚園の解体後の材料で、新たな五十嵐教会の会堂を建てられました。それも今も見ることが出来ます。

私は、短い時間でしたが、山の下福音教会の牧師を一年間させて頂きました。山の下福音教会の役員会で、さんび幼稚園の閉鎖について、新しい山の下さんび園建設について、ダニエル先生からご指導を受けたことを覚えています。先生の人柄は、人を上辺で差別しない、誰に対しても親切に接してくださいました。また行動の人でした。私たちに見本を見せて教えてくださったように思います。本

当にありがとうございます。天国で会ったら、「敵国であった日本の地で、日本人の救いのために、惜しみなく仕えて下さり感謝申し上げます。」と繰り返し申し上げたいと思っています。

「思いで」

山田 誠

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

（『ピリピ人への手紙』4章4節）

今から約60年前（1954年、昭和29年）、ダニエル先生は、この新潟の地に福音を伝えるために来てくださいました。当時の日本人の方々はまだ結婚をしている方は少なく、みな若さにあふれた青年たちでした。若い兄弟姉妹たちは純粋に宣教師さんたちの語る福音に耳を傾け、そして何の抵抗もなく従い福音を伝えることに大きな喜びを持っていました。彼らは宣教師とともに日曜学校の奉仕をしたりトラクトを配り路傍に立ち、福音を語り、祈り、賛美に素直に応答しておりま

した。互いに行き来をして宣教師さんたちの行くところどこにでも共について行きました。この新潟地区は一つの大きな家族のような親しみを感じていました。皆互いに行き来があるので顔を知り名前を知っていました。長い信仰生活の中で一番喜びにあふれていた時代だと思います。

ダニエル先生は宣教師になる前は海兵隊員であった関係で、新津に会堂がなかった時代にダニエル先生を通してカマボコ兵舎を寄贈いただいたと伺っています。

ダニエル先生は主にある確信に燃えいつもテキパキと行動していたように思います。新津と兄弟会堂である松浜のカマボコ会堂にも深く関わり一生懸命に立てあげるのに奉仕をされていたお姿を思い出します。体格がよく、がっしりした体に似合わず、優しい声でヤマダさん！と声をかけてくださいました。

93年のご生涯を主にお捧げして、福音の伝達のために生きられ、天にお帰りになられた先生、残されたご遺族、ペギー夫人に神様からの慰めがありますようにお祈りいたします。

どうか、私たちの主イエス・キリストであり、私たちの父なる神である方、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永

遠の慰めとすばらしい望みとを与えてくださった方ご自身が、あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あなたがたの心を慰め、強めてくださいますように。

（『テサロニケ人への手紙 第二』 2章16、17節）

「思い出」

中村節子

栄光の主をほめたたえます。

ペギー夫人。この度は、愛するご主人様を天国に送られ、お寂しい事と思います。お悔やみ申し上げます。

私がダニエル先生とお会いしたのは24歳頃だったでしょう。その頃は、亀田教会はまだ建設されておらず、建設予定地に鉄骨が山積みされていました。後々、宣教師の先生方の手によって、亀田キリスト教会が建設されました。その頃、私はクリスチャンではなく、亡き佐々木博宅で求道生活が始まった時でした。又、ある時は私の家族に宣教師の方々から、4人訪ねて下さり、柿の木に登り、柿を取ったり、堀に行つて三角網で魚を取ったり、楽しい時を過ごされた事。又、後々、ペギー夫人が柿で作ったケーキを持って来て下さった事

など楽しい思い出が沢山刻まれ、懐かしく、ただただ感謝しています。今ある私達の信仰の土台を築いて下さった宣教師の方々の愛の労苦、信仰の働き、そしてイエス・キリストとの出会い。私の宝です。

主の御手がペギー夫人と共にあり、災いを遠ざけご夫人が困る事のないようにして下さいますように。お祈りしています。

7. 豊栄キリスト教会から

「思いで」

笹川 清子

マクダニエル先生、この新潟の人たちを、いえ日本人を愛してくださりありがとうございました。感謝します。

豊栄は今新潟市になりましたが、当時はまだ葛塚と呼ばれており片田舎でした。集会は農協の倉庫のひさしから始ま

り、そこに山崎姉や近所の方々が導かれ、そのうちに山崎姉宅で集会が始められたそうですね。

私が豊栄教会に導かれた時は、すでに教会には若月牧師が牧会しておられましたので、ダニエル先生にお会いしたのはたまに教会に来られたときくらいですが、そのときのダニエル先生はいつもにこにこして「○○兄弟」「○○姉妹」と言われ、気さくに言葉をかけてくださいました。本当にどんな人かということをも愛してくださり愛の塊のような先生でした。またご自分が導かれた人を決して忘れず2001年に新潟に来られたときにはそれぞれの教会を訪問してくださいましたことはもちろんですが、体調が悪くて来られなくなっていた二人の姉妹の家まで訪問し励ましてくださったと二人の姉妹は喜んでおりました。

戦後人々が生きる目的を失い荒涼とした時代に宣教師として新潟に来られ新潟の人たちを愛し福音を伝え、多くの人たちがまことの神を知り希望を持つことができました。

ダニエル先生のお働きにより献身者も大勢起こされ、今も牧師として日本のあちらこちらで牧会しておられます。

私たちがダニエル先生のお働きに感謝するとともに先生のスピリットを継承していく者でありたいと思います。

私と妹が外国人に初めて会ったのは、小学校の低学年の頃でした。その方はマクダニエルさんといいました。豊栄市下土地亀の部落にイエス・キリストを伝えに来られました。それから20数年後豊栄に教会が建ちました。種を蒔けども蒔けども教会が出来ず、もう豊栄伝道を諦めようとしていたと聞いております。出来上がった教会に導かれここで再びダニエル先生とお会い致しました。先生は本当にイエスさまの足跡に倣うお方でした。いつでもどんなときでも声を掛けてくださり温かく迎えてくださいました。そして口から出てくるのはみことばで、問題解決もみことばでした。先生は忠実なキリストの僕として模範を示してくださいました。

ある時、妹の事で問題が生じました。ダニエル先生はこの問題には一切関与致しておりませんでした。妹の心を思うと居ても立っても居られなくて、妹を慰め励ますため実家に来られました。再び実家に来られましたが、玄関で、両親から罵りを受けました。再び実家に出向いたのです。人の失敗や責任をご自分が負って罵りを身に受けて、イエス・キリストの愛を実践してくださいま

した。この事実を母から聞いたのは30年後の事でした。ダニエル先生はすでにアメリカに帰国された後でした。あの時、先生が必死でとりなしてくださった母と妹は、今ふたりとも毎週喜んで教会に来ております。

一人の魂が滅びぬ様に心を尽くし身をもって事に当たってくださいました。キリストを宣べ伝え知恵を尽くし、接するあらゆる人々をキリストにある成人として立て上げるために労苦されました。先生に出会った多くの方々は献身者として召されていきました。目を閉じると、「兄弟！聖書を読んでいきますか！」との声が聞こえてきます。天の御国での再会を待ち望みつつ、主の御名を褒め称えます。アーメン。

8. 新発田キリスト教会から

「伝道のスピリットを教えてくださいましたマクダニエル先生」

———
本間 蕙子

マクダニエル先生は、とても明るくフレンドリーで、結婚前、他教団に属していた私にも、いつもにこやかにお声をかけてくださったことを思い起こします。

私の主人（本間進、2007年召天）は、大学生の時に救われ、マクダニエル先生から、とても大きな影響を受けたようです。先生は県内のいろいろな所に大学生たちを伴って路傍伝道や子ども伝道をされ、主人もよく連れて行っていただいたようでした。そのことが生涯、主人の伝道に対する原点にあったようで、どこに遣わされても、外に出て行くことに心が向いていたように思います。特に佐渡での8年間は、毎年春休みになると映写機を車に乗せて家族みんなや教会員の方々とたくさんの町々、村々の公民館に子どもたちを集めて映画伝道をやったことをなつかしく思い出します。

2003年、60歳の時に新潟福音教会を辞して、新発田伝道に移ったのも「最後は開拓伝道をさせてください」とずっと祈ってきたことを主がかなえてくださったこととして本当に感謝して生き生きと楽しみながら働かせていただいております。新発田開拓の働きは主人の「十年働かせてください。」との願いとは異なり、四年半と道半ばで終わりましたが、最後まで新発田伝道の使命を保ち続けられたことは幸いなことでした。

今改めて主人の伝道の姿勢を思い起こしますと、その背後にはマクダニエル先生によって与えられた伝道のスピリットが生き続けていたのではないかと思われ、今は天に憩われる先生に心からの感謝をおささげするばかりです。

9. 日高キリスト教会から

「He was a good man」—— 下川 友也

恩師マクダニエル宣教師が2月21日、ペンシルベニアの地で召された。93歳。私たちは英国にいる娘から深夜の電話で知らされた。彼女はフェイス・ブックで見つけるや、すぐに教えてくれたのだ。今やニュースが、そんなしかたで伝わることに驚く。翌日、ペギー夫人から短いメールが、そして長女のジェーンさんからも。おふたりがいずれも、「He was a good man.」と結んでるのが印象的である。ひかえめで、そのとおりであり、温かさを感じさせる。私などがさらに形容詞を重ねる必要のない、人物評、コメントである。

1959年11月長男バビーを9歳で喪う。白血病であった。その年の春受洗した私たちは、軽井沢の葬儀を終えたご夫妻を出迎えた。「バビーは天国にいますヨ」悲しみと望みとのまじり合った不思議な言葉と、お顔とを今もあざやかに憶い出す。

みことばの人、と言うべきか。いや、みことばしか説教で語らなかつた。文語訳で暗唱した聖句が、矢継ぎ早に語られ、くりかえし、信じましょう、感謝します、主をほめよ、で結ばれた。だから、生意気な私たちは、マク先生は説教は出来ないけど、教会（堂）建設、大工仕事をよくなされた、の宣教師だなどと言っていた。ところがどうして、実際のところ、先生の働きを通して多くの若者たちが献身し、牧師、伝道師となっていた。ただ人柄が良い、でない、まことの献身の生き方を私たちは目で見て教えられた。

新潟における最後の時代、横田早紀江さんを導いて洗礼を授けられた。長く長く支えて、横田夫妻がホワイトハウス訪問の時には付添って、その日の米国誌の一面を飾る写真が掲載された。新潟と全国に散るマク先生を愛する者と共に、その生涯に感謝をこめて。

2015年2月21日夜10時半、突然の電話で起こされた。ここしばらく通院、治療、投薬治療に加えて起きた身辺の出来事で、ひじょうに疲れた日々で、早々に床についていた。電話はアバディーンのものであった。米国経由のネットでも知ったという、マクダニエル宣教師の訃報であった。7時間前のことであるという。ああ、このときがついに来たのだ。90歳をこえて、車いすの日々、身体の弱っていくことを聞いていたのであった。翌朝のメールで、ペギー夫人から、その日は昼食を普通に食べたのち、夕方ごろから呼吸がやや困難になり、その夜半おだやかに召されたとのことであった。1955年3月に私は、W.パウエル宣教師から洗礼を受けた。通っていた新潟市の二葉町教会は、正月に火事で建物を焼失し、そのあとは信徒の家で礼拝、祈祷会、伝道会が行われていた。宣教師は東京に移動していたので、バプテスマの式は最後のご奉仕であった。入れ替わりに軽井沢で準備していた若い宣教師家族、マクダニエルご家族が新潟に来られ、焼け跡に新築された館に住むことになった。前任者にくらべて、若いケンタッキー出身のマクダニエル師は軽快であった

が、心もとなさも感じられた。日本語もまだよくできなかったが、宣教師館で子ども会などが始まった。そんな中で、日本語教師になるように依頼されて、マク先生夫妻とのかかわりが始まった。日本語学習の手伝いをしながら、私には学ぶべきことが多くあった。彼らはそれぞれ勉強の前に聖書を一章づつ読み、祈りをもって始めた。そのうちにダニエル宣教師は、聖書を開いてキリストの救いの福音をたくさん教えてくれた。そして、福音のメッセージをつくった。私にとってたいへん興味あることで、先生の語られることにこたえていく中で、信仰が育てられた。

クリスマスには、新潟の郊外、北蒲原の葛塚方面へ出かけるようになり、兄弟堀というところで紙芝居を使って、マク先生のジープのところに子どもらを集めて、集会を行なった。子どもたちはよろこんで話を聞き、やがては彼らの家を提供してくれるほどになった。このような集会は数を増し加え、ほかの青年たちをも巻き込んで、そこから献身者が多数育っていったのである。マク先生は自分で語ることはなかったが、青年たちとよく交わりをもち、福音をつたえることをよろこびとしていた。口を開けば、PRAISE THE LORD（主をほめよ）、すべてのことを感謝せよ、ピリピ4の4、ピリピ4の

13. こういう言葉、片言のような聖句を会う人ごとに語るのが先生の習わしであった。トラクトを配ったり、路傍伝道をしながら、神さまを愛し、福音を伝える姿勢に私たちは教えられて行ったのである。いま思うと、こういうあり方は不思議に思うのであるが、マク先生はコリント前書12章から自分はずける人になるのだと言っておられたことがあり、決して人を教えるというふうでなく、生活全体で福音を生きていたのであろうと思う。

マク先生の海兵隊のころからの友人で、同じころ日本に来て宣教師になった熊本県人吉市のアックスリー宣教師というかたがいる。かれは人吉を中心にたいへんすばらしい宣教の足跡を残した方である。神学も説教もすぐれた宣教師で、マク先生の招きで新潟に来て若い私たちに信仰の初期信仰の基礎などをばっちり語られたことがある。そのアックスリー宣教師が、ご自分とはまるで違うタイプのマク先生をえらく尊敬しており、そのことを私たちは、マク先生の人柄を語るときにぜひ触れておきたいのである。アックスリー宣教師に言及したのは、結果私がよりよく主に使えるために聖書を学ぶという段で人吉に小さな神学校ができるということを知り、昭和38年2月―翌年6月熊本の寒村でしばらくを独特に学ぶ

こととなった。そのとき当時神学校を卒業したばかりの井上温章先生が、アックスリー先生とともにギリシア語などを教えてくださり、その井上先生を通してやがて私たちが共にかかわることになる神学校を紹介されたのもある。さらにいえば、同じ熊本つながりで、日高に来てから、佐藤信彦先生の夫人玉絵さんと親しくなるという恩恵にも与る。

マク先生のジープの話から転じて、やがて先生は緑色の車（ワゴン）にかわるが、息子のボビーが車の愛称を「ピカン」号と呼んだ。PECAN（果実NUTの一種）。そのボビーは1959年、9歳で天に召されるのであるが、マク先生は日曜午後、青年たちを連れだして田舎の青空教室に行くとき、さあ、ピカンで行きましょう！と言いつつ、早世したわが子をその愛称を口にするたび独特のなつかしさをこめて呼んでいた。宣教の地でわが子をそんなにもはやくうしなうこと重さを測り知ることができないが、自分たちも子をもつ身となって、すこしでも推し量り、先生がたのお気持ちに近くありたいと思わされている。

編集後記

マクダニエル先生の訃報が届いてから早くも3ヶ月が経ちました。記念誌の発行が遅れてしまったことを、この場を借りてお詫びいたします。できれば発行も専門業者に依頼して装丁のしっかりしたものと願ってりましたが、追悼集会に間に合わせるため、結局手作業となりました。もし誤字脱字などがありましたら、どうかお許しください。

今回、40名近くの方々から、原稿をお寄せいただきました。その中で最初に届けられたのは、日高の下川友也・ヨリ先生ご夫妻からでした。何週間も経ってから、ヨリ先生が手術を控えておられたことを知りました。大変な中で原稿を寄せていただきましたことを特に感謝いたします。またその後届けられたすべての原稿に、マクダニエル先生ご夫妻に愛された人々の思いが詰まっております。願わくは、私を含め、先生方を知らない世代が少なくない今日の宣教区において、この記念誌が改めて宣教師の方々への感謝をみんなで作っていく契機となりますように。

ところで記念誌の表題「天国で会いましょう」は、新保泰

子姉の原稿にある、マクダニエル先生ご自身のお言葉から取らせていただきました。また表紙や装丁を含め、レイアウト全般を新発田キリスト教会発行「本間進牧師召天記念誌」を参考にいたしました。新保姉、本間羊一先生には事後報告となつてしまいましたが、どうかご容赦ください。

また巻頭、巻末の写真は、小林洋子姉、鈴木美恵子姉、山崎武雄兄から寄せられたものを使用させていただきました。貴重な写真を提供くださった三氏に心から感謝いたします。

その他、お忙しい中、呼びかけに応じて原稿をお寄せいただきましたおひとりお一人に心から感謝いたします。いただいた原稿は、今一度英訳の点検を行った後、速やかにペギー先生に送って、当宣教区からの感謝を伝えます。

最後に、私事で恐縮ですが、編集作業の終盤にさしかかったところで、母を天に送りました。ヨリ先生から言葉をお借りできるならば、「少しでもペギー先生のお気持ちに近づくことができた」のかもしれない。「天国で会いましょう」と、私もまた母の亡骸に向かって語りかけました。この記念誌が、ただ主の栄光を表すものとなりますように。

編集者 宣教区長 近 伸之

マクダニエル元TEAM宣教師召天記念誌
「天国で会いましょう」

2015年5月30日発行

発行者 日本同盟基督教団 新潟山形宣教区
〒950-1147 新潟市中央区高美町1-15 新潟福音教会内
TEL 025-280-0722 FAX 025-280-0723

編集者 日本同盟基督教団 新潟山形宣教区長 近 伸之

印刷製本 日本同盟基督教団 豊栄キリスト教会
〒950-3322 新潟市北区嘉山3-11-15
TEL 025-387-4934 FAX 025-250-0155